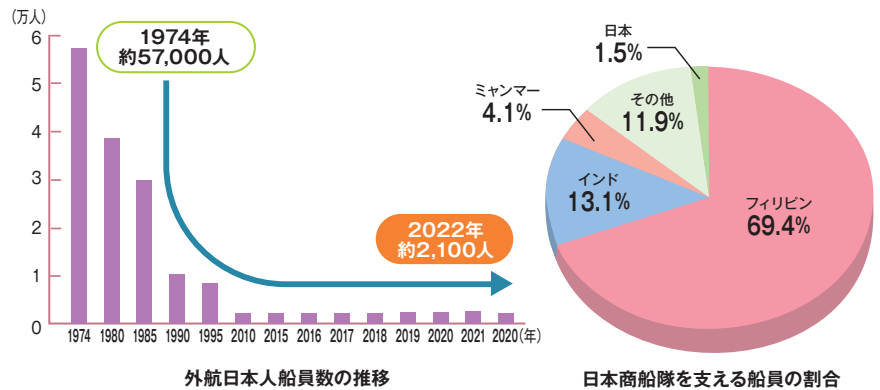


# 神戸港における 海事人材育成

全国的に問題となっている海事人材不足。  
神戸港では将来港湾・海運業界を目指す子どもを増やすことを目的として海事人材育成を行っています。今号では取り組みの一部を紹介させていただきます。

## 海運・港湾業界の現況

資源のほとんどを海外から船で輸入している日本。その輸出入のほぼ99.6%(重さベース)を海上輸送が担っています。しかし、外航船に乗り込む日本人船員は1974年をピークに減少し、現在日本の船会社が運航する船の乗組員は推定6万人弱。そのほとんどが外国人船員です。港湾運送事業においても、港湾荷役の担い手不足は深刻化しています。全国の港湾事業者の過半数で労働者が不足しており、4割以上で港湾運送への影響が生じています。



## 神戸港の現況

平成28年(2016年)に神戸港経済効果研究会により実施された推計では神戸港に関する産業が及ぼす経済効果について、市内就業者数に占める神戸港の雇用創出効果は約4分の1の26%、市内所得に占める神戸港の所得創出効果は33%に上ります。港湾関連産業が集積する神戸市にとって、港湾・海運業界の担い手不足は重要な課題となっています。

## 神戸港の取り組み

神戸市の経済を支える神戸港において、なり手不足は喫緊の課題であり、人材育成は非常に重要です。将来的に海運・港湾業界を志望する子どもを増やすことを目標として、年代に合わせた様々な取り組みを行っています。

	事業名	内容
<b>小学生</b> 船・港を知り、親しむ	みなとの学習会	遊覧船を使用した校外学習
<b>中学生</b> 船・港の職業を知り、憧れを持ってもらう	神戸港バックヤードツアー	港湾施設見学・体験航海イベント
	KOBE 海と港のお仕事ワークブック	小中学生向け副教材の全市配布
<b>高校生</b> 進路として船・港の仕事を選択する	海の上のオープンキャンパス	船員を目指すための具体的な進路を知る

**GOAL**：将来的に海運・港湾業界を志望する子どもを増やす

# みなとの学習会

神戸港における主たる人材育成事業の1つが「みなとの学習会」です。神戸の港について学習する小学3年生を対象に、授業に連動した校外学習として開催。遊覧船を学習会で貸し切り、神戸観光局港湾振興部職員による解説付きで、特別なコースを運航します。



海から神戸を眺める

みなとの学習会では、まず最初に「お船に乗ったことはありますか?」と尋ねます。この問いかけに対し、「乗ったことがある」と答える児童は数名で、船に乗るのは初めての子がほとんどです。

写真の中や窓越しに見たり、海水浴に行ったり、海を感じることができる場面は子どもたちの日常生活に溢れています。しかし、船で感じる潮風や海の匂いは普段は感じることでできないものです。神戸港に関する知識を蓄えてもらうことはもちろん、神戸港を五感で感じてもらうことを大切に、事業に取り組んでいます。



出発前は船の乗組員さんから安全のためのレクチャーを受けます。



質問を投げかけたり、クイズを出したり。楽しく神戸港を学んでもらう体験型の学習会です。



ガントリークレーンやコンテナ船が見えると、釘付けになる子どもたち。初めて見た! カッコいい! と興味津々です。

## 運航コースの地図



学習会中は座学のみでなくデッキに出て海を体感



神戸観光局港湾振興部では、「みなとの学習会」を年間60回行い、職員が神戸港案内を行っています。海・船・港に少しでも興味を持っていただけるように、また、校外学習が楽しいものになるように、自分達の住む神戸という街の特色を知る機会として、お話を聞いてもらうだけでなく船上のデッキに出て潮風や海の香りを感じて頂けるような工夫をしながら日々取り組んでいます。



神戸観光局港湾振興部  
振興課長  
小笠原 典彦



# 神戸港バックヤードツアー

港湾の現場を深く知ってもらう取り組みとして、港湾施設や船舶での見学・体験会「神戸港バックヤードツアー」を実施しています。「楽しみながら学ぶ」をテーマに、小中学生が親子で港について学ぶ体験型のイベントです。

令和5年度は、毎回大人気の宮崎カーフェリーの船内見学をはじめ、帆船「みらいへ」での体験航海、港湾短大神戸校でのガントリークレーンシミュレーターの操作体験など多彩な見学会を開催。神戸国際コンテナターミナルで大迫力の荷役作業を間近で見たり、香川からジャンボフェリーに乗船して操舵室や乗組員居住エリアを見学したりと、普段は入れない場所もじっくり見られるのは「バックヤードツアー」ならではの。神戸の子どもたちが「みなとの仕事」の魅力を最前線で学ぶことができる内容となっています。



宮崎カーフェリー船内見学

参加した子どもたちからは、

港ではこんなに人が働いていると知らなかったのが驚いた

ガントリークレーンはすごく大きくて、一度乗ってみたいと思った

今回の体験で、港のことに興味が出た

など、港の仕事に関心を持つ声が届いています。



港湾短大神戸校のガントリークレーンシミュレーター操作体験



帆船「みらいへ」の操舵体験

## 副教材冊子

# 「KOB...E海と港のお仕事ワークブック」

神戸港の役割を解説するとともに、海や港に関わる様々な仕事を紹介する副教材。市内の小学3年生・中学2年生を対象に約250か所の学校へ配布し、授業で活用いただいています。内容は「神戸港の成り立ち」から始まり、船員になるための具体的な進路や液化水素運搬船などの、先進的な取り組みについても掲載しています。令和4年度には教員からの声を反映し、クイズやワークシートなどを追加するなどの全面リニューアルを行いました。



小学生版



中学生版

## 海の上のオープンキャンパス

高校生向けの取り組みとしては、独立行政法人海技教育機構と連携した進路学習イベントが中心となっています。令和5年3月には、海運業界や船員の仕事について学ぶ高校生向けイベント「海の上のオープンキャンパス」を実施し、近畿圏外を含む全国から、26名の高校生・高専生と保護者が参加しました。参加者からは、「船について深く知ることができてよかった。」「自分の将来を考える良い機会となった。」との声が聞かれました。練習船員と直接話せる貴重な機会ということもあり、質疑応答の時間には多くの質問が飛び出しました。



## 神戸運輸監理部による出前授業

「海」「船」「港」に興味を持ってもらうとともに、国民の経済や生活の維持に重要な役割を担っている「海上輸送」の理解を目的として、神戸市内の小中学校に出向き「出前授業」を実施しています。

令和4年度は小学校9校、中学校1校、計557名の児童・生徒を対象に「出前授業」を実施したほか、行政や関係団体等の協力により、座学に加えて海事施設等を見学する「特別出前授業」も実施しました。



これらの事業は、海に行ったことない、船に乗ったことのない子どもたちにとって、海や船を知る原体験となるような機会を作ることを目標に取り組んでいます。今後は、進路を具体的に考える中高生へ向けた取り組みも強化していきたいと考えています。

どの事業も、神戸港の周辺事業者や関連団体の皆様にご協力いただき実施することができています。ご協力いただける事業者の方はぜひ、神戸市港湾局振興課までご連絡ください！



神戸市港湾局振興課 担当者 加護野 萌



# 阪神・淡路大震災を振り返る ～「経験していない世代」が見た被災・復興・現在～

甚大な被害を及ぼした「阪神・淡路大震災」から今年で29年。震災を経験していない神戸市民は5割を超えるとも言われています。震災を風化させないため、また震災を経験していない世代に震災を知ってもらうため、今号では改めて被災・復興を振り返り、神戸港の現在をお伝えします。



## 神戸港の被災状況

震災前の神戸港は、日本で最大のコンテナ港であり、世界でも有数の貿易港として活用されていました。しかし、1995年1月17日、大きな地鳴りとともに、突如としてその状況が一変しました。(写真 ©神戸市)



ポートアイランドの物揚場

液状化による基礎地盤の沈下。トラックが大きく傾いている。



倒壊したガントリークレーン

荷役に必要なガントリークレーンも大きく破損。



メリケンパーク

岸壁が大きく崩れ、液状化により海水が濁っている。



ポートタワー周辺

いつも賑わうエリアも液状化により泥まみれに。



ポートターミナル周辺

道路が分断し、通行不可能に。



## 神戸港の復興



© 神戸市

被災からわずか3日後、被災地への救援救護関係者の臨時宿泊施設として数隻の船が入港。その後も神戸市周辺都市（明石・姫路・西宮）との臨時航路が開設されます。また、神戸全体の復興や経済回復を見据え、六甲アイランドに仮設棧橋埠頭が建設されコンテナ取扱機能を取り戻していきました。

3月20日、摩耶埠頭の公共外資コンテナ埠頭にフルコンテナ船が入港し、被災後初のガントリークレーンを使用した本格的なコンテナ荷役を再開しました。

## 神戸港震災メモリアルパーク

青々と茂った芝生と観光客にも広く愛されるBE KOBEモニュメント。多くの人々が利用するメリケンパーク内には、被災当時のメリケン波止場の一部がそのままの状態で見学されています。

当時の被災・復興状況を伝える「神戸港震災メモリアルパーク」として、阪神・淡路大震災における神戸港の被災状況や、その復興の過程を中心に大震災の教訓と港や海路の重要性を伝える役割を担っています。



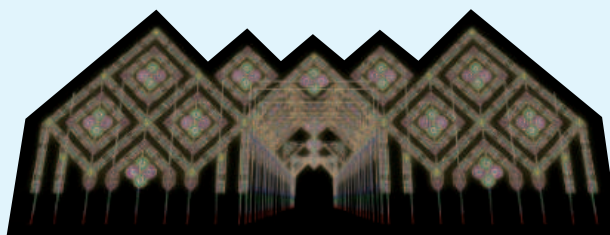
## 第29回 神戸ルミナリエ「神戸、未来に輝く光」

阪神・淡路大震災の記憶を次の世代に語り継ぐ、神戸のまちと市民の夢と希望を象徴する行事として1995年12月から開催された神戸ルミナリエ。今回で第29回を迎え、初めて1月に開催されます。（1月19日～1月28日）

作品テーマは「神戸、未来に輝く光」。今回は新たにメリケンパークでの展示が行われ、震災の記憶として残るメモリアルパークの近くで震災復興の象徴であるルミナリエをご覧いただけます。

[チケットの購入方法や](#)

[第29回神戸ルミナリエの詳細はこちら](#) ➡



©Kobe Luminarie O.C.



神戸観光局 港湾振興部 土山 愛加

### 「経験していない世代」のひとりとして

取材を通して、いつも見ている神戸港の道路や施設がどれほど震災の影響を受けたのかを改めて感じました。それと同時に、復興のため被災後すぐに動き出した港湾関係の方々の力強さにも心が動かされました。

神戸ルミナリエなどの震災に関する行事は、「経験していない世代」が震災について調べるきっかけにもなり得ます。そういった行事に積極的に参加するとともに、震災の記憶を風化させないよう、自分の周りいる大切な人と今一度「防災」について考えたいと思います。